



## 安井息軒顕彰 平成新ステージに!!

### 清武小学校児童、劇に合唱に大活躍

安井息軒は、明治9年9月23日、弟子たちに見守られながら、瞑目しました。例年秋分の日に顕彰イベントを開催していますが、今年は暦の関係で22日に開催しました。

午前中は歴史館で市長はもとより、たくさんのご来賓ご臨席のもと、先人祭を行いました。今年は没後140年に当たることから、例年ご参加の市内在住の安井紀子様に加えて、川崎市のご当主、安井雄一様もご参加くださいました。

式典終了後本館で、安井息軒顕彰書道コンクールの表彰式を行いました。今年からコンクールにおいて、安井息軒賞、県知事賞、市長賞、県・市教育長賞が新設され、書道コンクールにふさわしい充実した内容になりました。



安井雄一氏による授与

午後は場所を清武総合文化会館に移して、まず初心者向けの息軒講座が、続いて「夏休み子ども息軒塾」の活動報告がありました。

次はいよいよ清武小学校(中村富英校長)、安井息軒研究クラブ(指導：甲斐教頭、中武・梅木教諭、安井息軒顕彰会：富永氏を中心とした支援)による「安井息軒物語」の上演でした。

幕が開くや否や、観客は児童の演技に引き込まれ、江戸時代、息軒幼少時の清武にタイムスリップしました。実質的には今年5月からの練習で、クラブの時間を活用しての短い練習期間でしたが、子どもたち一人一人が安井息軒はじめ、それぞれの役になりきって、素晴らしい役者ぶりを披露し、聴衆を感動の渦に巻き込みました。

さらに感動したのが、エンディングの合唱部児童による「息軒先生のうた」です。こちらは今村養護教諭並びにお兄様の岳志氏による作詞・作曲で、編曲並びに指導は合唱部の堀教諭によるものですが、素晴らしい歌詞とメロディーで彩られています。この曲を子どもたちが、情感と安井息軒への想いを込めて美しく歌う姿が大変感動的で、劇を含めて会場は満場の拍手に包まれました。

筆者もかつて穆佐小学校勤務時代に「高木兼寛物語」の台本を書き、初めて児童に劇をさせ、以来伝統が引き継がれて高岡町教育の日へと広がりを見せているのを、逆にうらやましく感じていましたので、感慨もひとしおでした。

今回、没後140年、平成の世の新ステージにおいて、誠に鮮やかに知の巨人、安井息軒が甦り、大変うれしく思い、感動しました。

さらに最後は二見教育長をコメンテーターに安井息軒顕彰シンポジウムが行われ、幕を閉じました。(文責：川口)



「安井息軒物語」清武小児童の発表「息軒先生のうた」

## 清武城跡の発掘調査成果

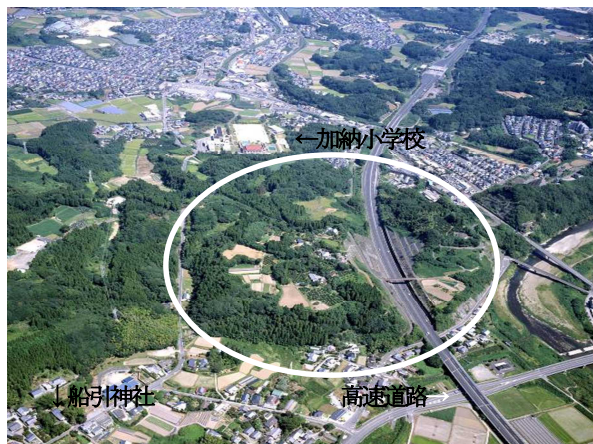
加納小学校の西側には清武城という山城があります。山城は大坂城や熊本城のような立派な石垣と天守を持つ「城」ではなく、自然地形を利用して造った土塁や堀などの防御施設をもつ「城」です。

清武城をご存知の方は本丸跡にある「清武城趾」と書かれた石碑を思い浮かべることと思いますが、石碑のある場所は清武城の本丸部分の一部でしかなく、本来の清武城の範囲は南北380m、東西320mにまで及ぶと考えられています。

清武城は伊東氏の支族である清武氏が築城したと思われていますが、その築城年は明らかになっておりません。しかし、1361年に書かれた古文書の中に「清滝城」と名前が出ていますので、少なくともその頃には存在していたようです。

清武城の「二ノ丸」部分は昭和51年に九州縦貫自動車道建設に伴って発掘調査が行われました。この調査は宮崎県で最初に行われた山城の発掘調査で、建物跡や溝、石垣などが見つかっております。

出土遺物としては14世紀代の中国産陶磁器があり、これは前述の古文書と同様に清武城の築城年代を考察する上で重要な資料です。その他にも15世紀から江戸時代にかけての中国産・日本産陶磁器や古銭、火縄銃の弾などが出土しています。清武城は室町時代から合戦を少なくとも4回は経験し、1615年に江戸幕府が命じた一国一城令によって廃城となりました。発掘調査の出土遺物は城として活躍していた頃に清武城にいた人々の生活や物流を推測させるとともに、城として使われなくなった後も、ここに人々が住んでいたということを示しています。(文責：秋成)



清武城址空中写真(○の中が清武城)

《 秋のミニ展示 》 10月1日(土)～11月20日(日)

「飢肥隊 山鹿の戦い」

～ 永野勇七「西南戦争従軍記」から ～

9時～16時半、毎週月曜日並びに祝日の翌日は休館日

《 きよたけ歴史講座のご案内 》

11月19日(土) 10:00～11:45 講師 市文化財課

主査 今城正広 「幕末、村医者医療活動の一側面」